

会 議 録

1 会議名

令和4年度 第2回 上越市博物館協議会

2 議題

令和5年度の事業計画について（公開）

- ・上越市立歴史博物館
- ・上越市立水族博物館

3 開催日時

令和5年3月28日（火）午後2時から

4 開催場所

上越市教育プラザ 大会議室・中会議室

5 傍聴人の数

なし

6 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

(1) 委員

川村知行、斎藤良人、清沢聡、増田小夜子、関谷伸一、大山賢一、山下優子、岩井文弘

(2) 事務局

- ・文化行政課 新保課長
- ・歴史博物館 宮崎館長、花岡副館長、荒川主任
- ・教育総務課 瀧本課長、力久係長、小林主任
- ・水族博物館 和田館長、野々山副館長、鈴木リーダー

7 発言の内容

令和5年度の事業計画について（公開）

(1) 上越市立歴史博物館

【歴史博物館資料 1～4 ページに基づき説明】

(川村部会長) 光熱費は大変だったでしょう。

(宮崎館長) 市役所のほかの庁舎と同じように補正予算で対応させていただいた。

(斎藤委員) 新潟県立歴史博物館も補正予算でなんとか。博物館は収蔵庫など空調を止めることのできない設備ばかり。

(川村部会長) 博物館にとって空調は命。博物館の空調が止まる事態になったら世も末。

- (清沢委員) 企画展Ⅰの頸城油田と平成21年度に開催された石油展と内容に違いはあるか。今回の展覧会の特徴は何か。
- (花岡統括学芸員) 平成21年度に開催した展覧会では明治時代以降が中心であったが、今回は江戸時代の頸城地域の油田の様子についてもしっかりと紹介していく予定である。ただ、平成21年度の展覧会にくらべて展示会場の面積が減っているため、展示内容の構成や展示する資料など全体のバランスを整えていきたい。
- (清沢委員) 歴史博物館のリピーターの方から、今回の石油展について平成21年度と同じ内容になるのかなど質問を受けた。今回のチラシなどで、前回の石油展と異なるポイントについて、難しい内容でなくて良いので集客につながるようにアピールしてほしい。現在も石油で日本中大変な状況が続いているなかで、もう一度石油のことを考える展覧会になれば。少しでも良いので新しい成果をぜひ出してほしい。
- (花岡統括学芸員) 今回の石油展のチラシ・ポスターはこれから作成する。平成21年度の展覧会との違いについても打ち出していきたい。
- (川村部会長) 日本石油や帝国石油という会社の名前は良く知られている。上越の油田と現在のエネルギー会社がきちんとつながっているということをしっかりと示してほしい。
- (花岡統括学芸員) 帝国石油は現在INPEXという会社になっている。帝国石油の時代から長岡・上越から東京までパイプラインをつないでガスを供給している。上越の石油の歴史から現在のINPEXのガスパイプラインまで歴史的につながっている様子を展覧会では紹介していきたい。
- (川村部会長) 旧国鉄の石油運搬車の模型とか展示できたら面白いか。「くそうず」という言葉は知っているが、「くそうず」を博物館の屋外で展示する方法はあるか。上越市内には今も石油が出ているところがあるが、そのことを市民はほとんど知らないのではないか。上越で石油をテーマにした展覧会を行う意味をしっかりと示して、充実した展覧会にしてほしい。
- (増田委員) 現在開催中の逸品展示「どうする康政」は大変興味がある。お配りいただいた事業案内リーフレットに掲載されている陣羽織のほかに展示資料はどんなものがあるか。
- (花岡統括学芸員) 陣羽織のほかに、榊原康政所用の采配や康政直筆の遺言書、そのほかにも徳川家康や上杉謙信から榊原康政に宛てた手紙など、康政ゆかりの道具や古文書を

展示している。この逸品展示とあわせて、榊神社の雙輪館では4月1日から9日までの会期で榊原康政の刀や鎧などの遺宝展が開催される予定で、博物館と雙輪館とでタイアップした事業となっている。

(増田委員) むかしのくらし展については、毎回拝見しているが、内容や展示物が年々充実している。博物館の展示のなかで、みる体験だけでなく、モノに触る体験とか炭のにおいなどのにおいの体験などもできるようになれば良い。柱時計の音の体験も良いと思う。

(花岡統括学芸員) コロナ禍においては、モノに触ってもらうというのが難しい時期が続いた。以前は実際に資料に触ってもらう展示もしていたので、モノに触れる展示の再開も考えたい。柱時計は時間をあわせて展示しているので、時間になると実際に音を聞くことができる。

(川村部会長) 来年度の逸品展示は「高田盲学校」をテーマにするのか。

(増田委員) 視覚障害や聴覚障害の方に対してはどのような対応をされているか。

(宮崎館長) 高田盲学校については、新潟県立歴史博物館が中心となって進めている「守れ！文化財」という事業で資料調査などを行っている。文化庁から補助金をもらっている事業で、当館は協力館となっている。視覚障害や聴覚障害の方への普及活動も行っていて、去年はオーレンプラザで盲導犬や聴導犬に関するイベントを開催したほか、小林古径記念美術館では触れるお茶会などの企画を行った。博物館や美術館の資料・作品にどうやったら触れていただけるか、近づいていただけるかを模索しているところ。新潟県立歴史博物館では今年秋に事業の成果を発信するための展覧会を開催する予定で、高田盲学校についても紹介する内容になる。当館ではその成果をうけて、来年度の逸品展示で高田盲学校に特化して紹介する予定でいる。

(斎藤委員) 今の「守れ！文化財」事業に関しては、3年前に京都盲学校資料を素材にしたキックオフミーティングではじまった。展示も今年秋に長岡で、来年春に高田でと、リレー展のような形になればよい。

(川村部会長) 何で盲学校の設立は高田で早かったのか。高田の石田眼科さんなどと連携をしたらよい。

(宮崎館長) 視覚障害の要因としていろいろな説があるが、稲わらによる眼病や感染症が多かった。高田盲学校の創設者の大森隆碩も眼科医だったが自身も眼病になったこともあり、教育のために私立の盲学校を開いた。ある時期の高田には、瞽女

さんもいて、盲学校の生徒もいた時期がある、特別な場所に思われる。日本で最初の盲学校が京都、二番目が東京、三番目が高田になる。京都盲学校の資料は重要文化財に指定されている。東京は空襲で資料が全部燃えてしまっていることから、全国的にみても、高田に盲学校の資料が残っているのは大変貴重なこと。高田盲学校資料には点字で作られたキリスト教聖書など貴重なものが含まれていることも分かってきた。また、石田眼科さんとの連携についても、眼病の歴史そのものは石田眼科さんが一番よくご存じなので、色々と教えてもらいたいと思っている。

(川村部会長) とても意義のある展示になると思う。

(斎藤委員) これまでの議論を聞いていても、地域と密着した取り組みをされていることは、地域博物館の使命そのものであり、とても大事なところ。令和5年度の展覧会についても地元密着のテーマばかりでとても良い。ただ油田の展覧会は産業がテーマであり入館者が伸びるかどうかが。県立歴史博物館でも産業ものの展覧会は専門家には好評だが一般の集客が伸びない。展覧会にあわせてパンフレットを作成するのは良い試み、どうやったら分かりやすく解説できるかが大切。広報も重要になるので、幅広い年代にむけてそれぞれタイムリーな情報発信を心掛けてほしい。

(川村部会長) 最後、全体的な意見になるが、博物館と水族博物館の役割は今後ますます変わっていく。現在の博物館と水族博物館合同の協議会では博物館と水族博物館それぞれのことを十分に議論できない。このような形式的な博物館協議会はそろそろ終わりにしてほしい。これまでの経緯もあるが、条例改正も含めて検討していただきたい。

(新保課長) 博物館協議会の条例は昭和62年に制定され、平成12年・同24年・同29年に改正している。その時々の改正の経緯も丹念に振り返りながら、今回のご意見についても検討していきたい。

(川村部会長) 名実ともに意味のある協議会にしてほしい。市民をまきこんで博物館を守る体制にしてほしい。

(2) 上越市立水族博物館

【水族博物館資料 1～8 ページに基づき説明】

(岩井委員) 最近の入館者数はどうか。

- (和田館長) コロナ禍の影響を受け、令和2年度は入館者数が約20.6万人に減少したが、令和3年度が約24.5万人となり、令和4年度は33.5万人程度が見込まれ、回復傾向で推移している。
- (山下委員) 管理運営方針の説明があったが、令和5年度において、特に重点的に取り組むことは何か。
- (和田館長) 令和5年度は、開館5周年を迎えることから、集客のための取組に注力していく。具体的には、既に開館5周年イベントとして、特別展「生きものがかたる造形美」を開催しており、その後も秋期までの間、段階的に開館5周年記念事業を実施していく。加えて、展示の充実も図っていく。
- (大山委員) 普遍的な管理運営方針のほか、年度毎の運営理念となるものを具体的に示すことが、後の評価にもつながると考える。
- (力久係長) 今年度は、新たな上越市総合計画、上越市総合教育プランの始まるの年度である。これらの上位計画に基づいて管理運営方針を設定し、事業を展開していくことから説明を行ったものである。
- (大山委員) 上位計画との関係については、開館5年という節目の年であり、今後の管理運営の方向付けを行う上で重要な年であると考え。上位計画を踏まえつつ、今後を見据えながら検討を進めてほしい。
- (関谷部会長) 開館時間や休館日の設定については、どのように考えているか。
- (和田館長) 開館時間については、入館状況や入館者のニーズを踏まえながら設定を行っている。休館日については、施設や設備のメンテナンスを行うために、臨時休館日を設けているものである。
- (関谷部会長) 催事ホールを今以上に活用することはできないか。
- (和田館長) さらなる活用を検討していく。
- (山下委員) 催事ホールについて、特別展以外には、どのように使用しているか。
- (和田館長) レクチャーなどの教育普及事業で使用している。
- (鈴木リーダー) その他、企画展やトピック的な情報発信にも使用している。
- (山下委員) 催事ホールの有効活用
観覧順路の最後に位置している催事ホールの活用次第で、満足度の更なる向上を図ることができると考える。また、興味や期待感を創出するために、催事ホールへの誘因方法を検討してほしい。
- (関谷部会長) リピーターにとっては、催事ホールにおける展示のように可変性のあるものが

重要であると考える。

(岩井委員) 新潟県立海洋高等学校との連携は、従来から行われているのか。また、連携で取り組むアクアポニックスについては、今後の研究発表にもつながるものか。

(鈴木リーダー) 新潟県立海洋高等学校（以下「海洋高校という。」）との連携については、従来から行っていると認識している。アクアポニックスについては、コイの飼育展示プールにおいてリーフレタスを水耕栽培する取組であり、令和4年度において一定の成果が得られた。収穫したリーフレタスは、藻食性の魚類に餌として利用している。研究発表については、株式会社横浜八景島のグループ園館内の研究発表会で発表を行い、高い評価を得ているところであり、今後、外部での研究発表も視野に入れている。

(力久係長) 補足になるが、海洋高校との連携については、旧水族博物館時代からのものであり、同校の活動の紹介や生徒が育てた種苗の展示などを行ってきた。近年は、魚類の繁殖に欠かせない初期餌料の提供を受けるなど、連携を図っている。アクアポニックスについては、水族博物館での実施に当たり、海洋高校から助言を受けたものである。情報を得ている範囲では、現在、アクアポニックスに取り組んでいる水族館は他にないことから、取組を深めていきたい。

(山下委員) 海洋高校との連携は、実務面は勿論、PRの面においても有意義なものであると考える。

(関谷部会長) 水族博物館において、海洋高校の生徒が解説を行うような取組は有るか。

(和田館長) 令和5年度において、実施を検討している。

(大山委員) アクアポニックスについては、水族博物館における取組が動物と植物の関係性や自然環境に対する理解を促すとともに、小学生や中学生などの実践につながる工夫があると、より良いと考える。

(関谷部会長) 海洋高校との連携推進について期待する。

(岩井委員) 様々な教育プログラムが計画されており、水族館の仕事を知る意味でも有意義であると考えますが、新規に実施する「レッツ！トレーナー体験！」について、具体的な内容や料金設定の考え方を確認したい。

(鈴木リーダー) 掃除、調餌、給餌などの体験を通して、水族博物館の業務や水生生物に対する理解を促すことを目的としている。料金設定については、水族博物館の入館料とは別に設定するもので、事業実施に係る保険料や被服代などの実費相当額を負担いただくものである。

- (岩井委員) 参加ニーズについて、どのように想定しているか。
- (和田館長) 参加ニーズは高いと考えている。
- (山下委員) 土日や休日に実施するのか。
- (鈴木リーダー) 最繁忙期は取り扱いが異なるが、土日、休日の実施を予定している。
- (山下委員) 新規の事業については、PRが重要だと思われるので、機会を捉えて学校などへのPRを実施していただきたい。
- (関谷部会長) 開館5周年事業については、具体的になっていないものもあるのか。
- (和田館長) 運営戦略的な面もあり、現時点で全てを明らかにすることはできない。
- (山下委員) 開館5周年であることについて、より積極的にPRを行っていただきたい。
- (和田館長) 「広報じょうえつ」において、特集を組むことも計画している。
- (大山委員) 開館5周年事業については、地域として盛り上がるのが望まれるため、地域との連携にも取り組んでいただきたい。また、10周年を迎える際には、鯨類の補充についても期待するところである。
- (岩井委員) 地域の水族館として、地域に根差した展示に、より注力していただきたい。
- (山下委員) 水生生物との触れ合いを深めるためのスペースがあると良いと考えるので、今後の取組として検討いただきたい。

(3) 全体会：両部会での議論の報告

【水族博物館部会】

- (関谷副委員長) 令和5年度事業計画について、次のような意見が出た。水族博物館の管理運営方針について、令和5年度の方針を明確にして欲しい。コロナ禍の影響により減少していた入館者数が回復傾向にあることについて、今後の動向を期待している。年中無休であることについて、管理運営上は苦労も多いだろうが、施設利用者にとっては歓迎すべきことである。催事ホールの活用を更に推進して欲しい。海洋高校との連携は双方にとって有意義なことであり、更なる推進を期待する。様々な教育プログラムの実施が計画されているが、なかでも新しいプログラムである「レッツ！トレーナー体験！」については、職業体験的な側面からも有意義である。開館5周年事業に期待しており、実施に当たってはPRに注力するとともに、地域に根差した水族館として地域との連携を図って欲しい。

【歴史博物館部会】

- (清沢委員) 令和5年度事業計画については、大きく4つ意見が出た。逸品展示「どうする

康政」は現在放送中の大河ドラマ「どうする家康」にちなんだ企画で、高田藩主であった榊原家の初代康政を紹介する内容。上越市に残る榊原家ゆかりの資料を大いに活用してほしいという意見が出た。二つ目として、企画展Ⅰ「頸城油田の盛衰」については、平成21年度に同じく油田をテーマにした展覧会を実施しているが、今回の新たな視点や成果を作成するパンフレットや広報活動のなかで十分に工夫してほしいという意見が出た。三つ目として、博物館の展示について、見る展示に加えて、触る展示やにのびのびの体験など取り入れて、視覚障害や聴覚障害の方への展示についても工夫してほしいという意見が出た。上越には高田盲学校に関する資料がまとまって残っていて、高田盲学校に関する展示も予定されているとのことであった。こうした資料の活用は大変素晴らしいことだと思う。四つ目にまとめとして、地域と密着した博物館でありたい、あらねばならないということを確認した。地域資料の活用と同時に市民の皆さんに分かりやすく理解してもらうことが大切で、今の時代にあうような情報発信の形を考えていかないといけないという意見が出た。最後に、大きな話として博物館協議会のあり方についても発言があったが、これは教育委員会に関わる内容なので、今後検討していただけたらと思う。

(川村委員長) それぞれの部会で充実した内容になったと思う。今後の博物館協議会のあり方については、改めて説明したい。水族博物館と歴史博物館という似たような役割も持つが本質的に違うことをしている両館が一緒になる協議会において、わずかな時間では十分に議論することが困難ではないかということをお話してきた経緯がある。協議会は本来設置条例で設置されている。この間、条例の改正が3回あったと聞いた。もう1回条例改正をしてほしいというのが私の提案。これまでの博物館協議会の経緯については、歴史博物館と小林古径記念美術館が一緒であった協議会を別々にしたものの、その後新水族博物館の設置の経緯もあって、歴史博物館と水族博物館の合同の協議会になった。この協議会では両館の名称なども議論したが、今の合同の協議会については役割を終えているのではないかと。この3年間、コロナもあって協議会のあり方についての議論ができなかった。私はいつでも辞めるつもりでいるが、この提案については議事録に残してほしい。実質的な中身を検討でき、市民と地域にとって最も有効な役割が果たせる歴史博物館と水族博物館のあり方を求めていく、本来の協議会の形に戻してほしい。これには条例を改正しなければならないが、充実した内容

を議論できる博物館協議会になるよう、環境や組織の整備を教育委員会で検討してほしい。

(大山委員) 歴史博物館と水族博物館では中身が異なるので、なかなか共通のことを議論するのは難しい。条例改正とともに一緒になってしまっていることに課題はある。理科の視点から見ると、上越市には水族博物館と上越科学館がある。上越科学館は博物館協議会に入っていないが、似たようなことをしていることに違和感もある。水族博物館と歴史博物館のあり方について、市民に還元する協議会としてどんな形が良いか前向きに議論・検討をしてほしい。一つの博物館協議会に両館が入っていても良いが、実働としては全く違う形で動いていくあり方が可能であれば良い。今の形はお互いにやりづらい。これまでもこのような話は出ていたので、きちんと整理していただけたら良い。

(関谷副委員長) 最後の委員長からのお話については、私には難しいお話だとお聞きした。今日は、それぞれの委員がそれぞれの専門の立場から色々な意見を出した。委員の数が増えればもっと色々な意見が出る。違った意見だとしても協議する価値は十分にあると思う。今回の委員の意見も、全部取り入れることはないだろうが、こういう意見があったということでこれからの歴史博物館や水族博物館の運営に活かしていただけたらと思う。今回のそれぞれの部会の議論を聞いていて改めて気付いたが、両館に共通するキーワードは、地域であると思う。どちらの館も、地域に根差した、地域とともにという意見があったので、上越市立歴史博物館と上越市立水族博物館の進む道であると思った。博物館協議会の委員も協力しながら、ともに発展させていければと思う。

8 問合せ先

上越市立歴史博物館 TEL : 025-524-3120

E-mail : museum@city.joetsu.lg.jp

9 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。